

## 地域包括ケアネットワーク No.3

### 人口12,000人余の小規模行政における地域づくり 「早島町包括ケア懇話会―病んでも介護が必要になっても 住み慣れた早島町で過ごすために―」の紹介―

都窪医師会 木村 丹

厚労省は平成20年に「地域包括ケア研究会」を発足させ、国の政策として「地域包括ケアシステムの構築」を掲げた。それを受けて全国の市町村では多職種連携のネットワークづくりを展開させている。都窪医師会は県南に位置し、早島町、岡山市、倉敷市の三つの行政が関わっている。そのうち早島町では昨年秋までは特別な取り組みはなかったが、町長、副町長、地域包括支援センターに働きかけ、それまでの地域包括支援センター運営協議会委員(11人)を増強し、都窪医師会の協力のもと、今年1月15日(水)に「早島町包括ケア懇話会」を発足させた。懇話会委員は、医療・介護・福祉関係者(民生委員、福祉活動員、愛育委員)を拡充し、他に司法書士、警察官、消防団、老人クラブの代表者も含め計20人とした。さらに早島町が実施主体となり「平成26年度在宅医療連携拠点事業」を受託し、活動費用を確保し、地域包括支援センターに常駐する事務職員(臨時職員)を雇用した。

早島町の概要は下記のとおり、

- ・面積：7.61km<sup>2</sup>(東西、南北とも車で15分以内)
- ・人口 12,262人(平成26年6月1日)
- ・人口密度：1,606人/km<sup>2</sup>(県内市町村で最も高い)
- ・高齢化率：26.7%
- ・診療所：5、病院：1
- ・地域包括支援センター：1
- ・居宅介護支援センター：1
- ・介護老人福祉施設：1
- ・通所介護事業所：2
- ・訪問看護ステーション：0
- ・通所リハビリ事業所：0

早島町の特長として、人口規模は包括ケアシステム構築に極めて相応しい人口で、面積は狭く、移動時間は短い、など良い面があげられる。また医療機関や介護施設数は多くはないが、車で15分程の距離に24時間対応の巨大病院が2カ所、また近隣に中規模病院、訪問看護ステーション、デイケア、デイサービス、ショートステイ事業所が数カ所あり、医療・介護資源に問題はない、といえる。

地域包括ケアシステムは、住み慣れた地域で最期まで生活することを目的とし、「医療・看護」、「介護・リハビリ」、「生活支援・福祉サービス」、「保健・予防」、「すまいとす

まい方」の五つの要素で構成されるネットワークの充実を目指しているが、実際には医療と介護が重要視され、多くの地域でこれらを中心に充実・連携が取り組まれている。しかし医療と介護がいかに充実しても、生活が成り立つものではなく、当地区では5要素のひとつ「生活支援・福祉サービス」の充実も重点課題とした。地域における生活支援の担当者は主に民生委員であり、その歴史は1917年(大正6)の「済世顧問制度」に始まる。この制度はほぼ100年前に創設された生活困窮者を救うボランティア活動であり、介護支援専門員よりも遥かに長い歴史を有している。各地で進められている「医療と介護の連携・統合」でさえ容易ではないが、地域で最期まで生活を持続するための支援であれば、「生活支援・福祉サービス」は必須である。敢えて三者の統合を目指して取り組んでいる。

早島町が「在宅医療連携拠点事業」を受託し早島町が実施主体であることから、早島町直属の地域包括支援センターが運営面を受け持つが、医師会の全面協力が必要条件である。町内の介護支援事業所は、早島町地域包括支援センターと早島町居宅介護支援センターの2カ所のみで、所属するケアマネジャーはそれぞれ5人、8人の計13人で意思疎通は図り易い。現在までに下記の会議・研修会を開催した。

- 1月15日(水)「早島町包括ケア懇話会」第1回基本会議
- 4月17日(木)「医師・歯科医師・ケアマネジャー意見交換会」
- 5月26日(月)民生児童委員協議会・福祉活動員協議会連絡会  
講演「地域包括ケアシステムについて、  
－特に生活支援サービスの充実・強化－」  
講師：木村 丹医師
- 6月4日(水)「早島町包括ケア懇話会」第2回基本会議  
医療・介護職研修会  
講演「新見地域医療連携推進事業の活動状況」  
講師：新見医師会 太田隆正会長
- 6月12日(木)介護支援専門員研修会  
講演「介護・福祉の歴史・現況・将来」木村丹医師
- 6月30日(月)生活支援の取り組みに向けて  
「民生委員、福祉活動員、地域包括、行政代表の意見交換会」
- 7月10日(木)連携シート「むすびの和」  
講師：総合ケアシーザル 宮原伸二医師
- 7月24日(木)多職種による意見交換会(ワールドカフェ方式)96人参加
- 8月14日(木)介護支援専門員研修会「パーキンソン病の理解」  
講師：神経内科クリニックなんば 難波玲子医師
- 8月18日(月)在宅医療連携拠点事業担当者会議  
備中保健所
- 8月27日(水)在宅医療に関する公開シンポジウム  
基調講演：講師：御津医師会 森脇和久前会長

シンポジスト：玉谷 弘美氏（訪問看護ステーション絆）  
佐藤 健志氏（創心会居宅介護支援事業所）  
渡辺 厚子氏（早島町ヘルパーステーション）  
山崎 濱子氏（看取り体験者）

- 8月28日（木）早島町福祉活動員協議会にて挨拶
- 9月11日（木）介護支援専門員研修会  
「地域づくりにおける介護支援専門員の役割」  
講師：介護支援専門員協会 堀部 徹会長
- 10月9日（木）介護支援専門員研修会「高齢者疾患の特徴」
- 10月27日（月）民生委員・児童委員協議会  
講演「地域包括ケアにおける生活支援」

医療と介護の連携・協働は進みつつあるが、どの地域でも生活支援・福祉サービスは十分にはネットワークに組み入れられていない。病んだ高齢者が地域で過ごすためには、医療と介護サービスのみならず、「生活支援」も必要とする。生活支援・福祉サービスには、①社会参加（通いの場）：サロン・コミュニティカフェ（公民館、理解者宅）、認知症カフェ、体操教室、手芸、習字など、②身近な生活支援：買い物・散歩介助、見守り、通院介助、安否確認、ごみ出し、緊急通報システム、火災安全システムなど、③制度化された支援：権利擁護（成年後見人）、生活保護などなど、があげられる。その中にはすでにフォーマル化されたものも多いが、ボランティアによるインフォーマルな「生活支援」も数多くある。いずれも支援の中心となる民生委員や福祉活動員の理解を得ることが第一歩と考え、可能な限り情報交換の機会を作るようにしている。

今後、早島町における在宅医療、介護、福祉・生活支援サービスのさらなる連携・協働・充実に向けて、専門職・担当者の意見交換会・研修会、町民公開講演会を開催し、医療、介護・福祉による“地域づくり”を目指していく。



6月4日（水）医療・介護職研修会